

インドネシア 海外散歩



世界文化遺産 ボロブドゥール遺跡をたずねて

日柳 政彦

バンドン（注1）から空路ジョグジャカルタ（注2）に着いた時はすでに日はとっぷり暮れていた。途中左手窓の外にインドネシアで最も活発な火山の一つと言われているムラピ山が雲上にそびえていた。

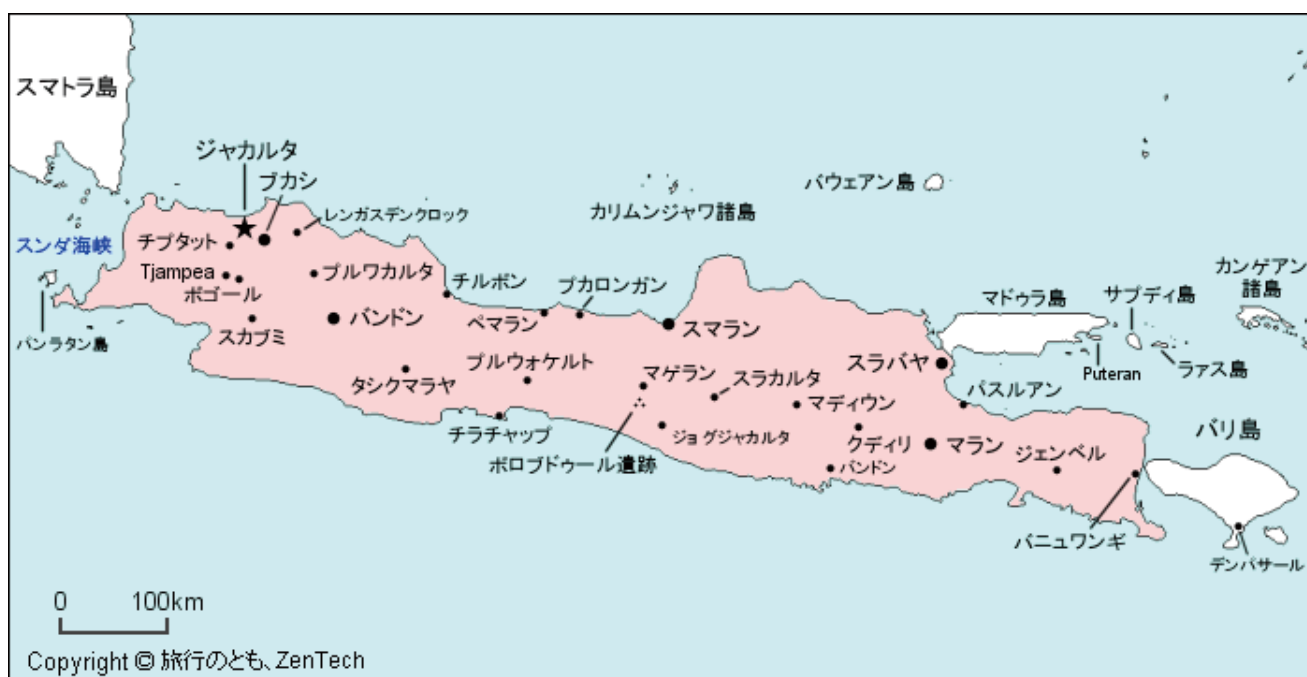
ジョグジャの街は古都らしく素朴でしっとりとした雰囲気漂う街である。インドネシアといえば熱帯気候で高温多湿を覚悟していたが、ここジョグジャ

はバンドンと同じく熱帯モンスーン気候で到着した9月3日は丁度乾季に当たり思ったより涼しく思えた。

ジョグジャに来たのは、世界最大級の仏教遺跡で、ユネスコの世界文化遺産に登録されているボロブドゥールやプランバナンの寺院遺跡群を訪れるためである。ボロブドゥール遺跡はこの街から約1時間程度で40数km、北西方向にあるとのこと。

ジョグジャ初日はインドネシア滞在3日目である。この歳ではそろそろ疲れが出てくる頃である。明日の遺跡巡りは夜明け前の出発であり、結構強行軍だということで早く床に就いた。女房も疲れたと見え、もうスースー寝息を立てていた。

早朝というよりまだ夜の続きといったよい午前3時半ホテル出発。と言うのは、日の出をボロブドゥールから見るとの趣向



インドネシア ジャワ島地図 出典元:「旅行のとも, ZenTech」



ボロブドゥール寺院最上円形壇でのご来光
(日出の左側に薄くムラピ山を望む)



ボロブドゥール・目透かし格子が破壊されたストゥーパ
(内部の仏像が露出)

のためである。実際、この遺跡を訪れるほとんどの観光客はこの時間帯にジョグジャを出発している。なるべくいい場所で日の出を見るためにと早くホテルを出たが、ボロブドゥール遺跡の受付ハウスに着いた頃はまだ真っ暗にもかかわらず、すでに数十人の観光客が着いていた。

係員から懐中電灯を渡された。周囲の様子が全く分からないところを懐中電灯の光を頼りに真っ暗な坂道を登っていく。立ち止まって空を仰ぐと南半球での満点の星が輝いている。ゆっくり星空を楽しみたいが後ろから観光客の督促の声で、期待の南十字星を見るところではなかった。

15分ほど登っていくと、前方にぼんやり大きなドーム状のシルエットが見え始めた。ボロブドゥール寺院遺跡に到着したころは東の空にうっすら明るみが出ていた。暗さに目が慣れてきたのか、暗い中に遺跡の全体が眼前にはっきり見えてきた。

寺院は天然の丘に盛土のう

え、岩を積み上げてつくられている。いちばん下に方形の基壇があり、その上に基壇と相似形をなした5層の方形壇、さらにその上に3層の円形壇があり、全体で9層の階段ピラミッド状の構造となっている。この構造は、仏教における三界をあらわしていると考えられているとのこと。(ウィキペディアより)

真正面に地面から6層目までまっすぐ急な階段が構えていた。最上の方形壇は回廊があり、更に3層の円形壇が壇ごとに階段が設けられ最上壇まで登れる。女房が二年前転んで大腿骨頭部骨折し人工股関節置換術を受けていたので、この急な階段を登れるのか心配したが、後ろを気にせず、石段を踏みしめながらゆっくりゆっくり手すりのない階段を上り詰めた。

我々一行は、娘夫婦とバンドンから一緒に来た娘婿の両親に加え、昨日ジョグジャカルタ空港で合流した現地ガイドさんを含め7名である。婿の両親は息子夫婦と一緒に長旅するのは初めとのこと

で、今回の息子夫婦の招待が嬉しくて仕方ない様子で、歳を感じず結構しっかりした足取りで上がっていた。一行は最も高い壇上の、やや赤みを帯びた東の空が真正面に見える側に陣取り、日の出を待つこととなった。

日の出まで未だ時間があるとのこと、ホテル側で準備してくれたサンドイッチ等の朝食を周りの観光客を気にすることなく、多少冷気を感じず中、談笑しながら美味しく食べた。

ちなみに、我々以外の観光客のほとんどは欧米人であり、日本で爆買いしている中国人などアジアの人々はほとんど見当たらなかった。

朝食を済ませて間もなく東の空の赤みが増し、うっすらと地平線に漂う薄い雲の縁がきらりと光りを帯びた。私を含めほとんどの観客はカメラを構え日の出の瞬間を待った。思わず、二十歳代の頃の富士山頂からご来光を待った情景を思い出した。

一筋の光が一直線に我々の目の前まで延び、ご来光が現れた瞬間、

まるで示し合わせたかの様に一斉に歓声と拍手が起こった。実にすがすがしく神々しい光景である。これが初めて南半球で見たお日様のお出ましである。

周囲の風景は遮るものはなく、空も雲一つなく、日の出の方角に富士山のようなムラピ山の雄姿を観ることができた。私はバルト三国旅行は例外として、これまで海外旅行でほとんど雨に当たらないラッキーな天気男である。

日が昇り周りがすっかり明るくなると、ボロブドゥール寺院固有の大きな釣鐘状のストゥーパと呼ばれる仏塔が、最上部中央のひと際大きなストゥーパを中心に3層の円形壇の周囲を規則的に配置されていることがよく分かった。なんでも全部でなんと72基あるという。このストゥーパは石のブロックを目透かし格子状に積み上げた仏塔である。内部を覗くと仏像が安置されている。一部はストゥーパが破壊され中の仏像が露出していた。仏像やストゥーパ、そして遺跡を囲む朝霧に煙る樹海、写真が趣味の方には格好の素材ではなかろうか。丁度日本の平安京初期の頃に建造された石仏塔で、近代になって修復工事が施され

たものの、今日までよく残っていたものである。

それもそのはず、例のムラピ山が噴火し火山灰が大量に降り注ぎこの寺院をすっかり覆い隠し、久しく忘れ去られ密林のなかに埋もれていたという。一方で、イスラム教徒による破壊をおそれて人びとが埋めたという説もあるが。いずれにせよ、密林によってその姿を消し地元民にも忘れ去られていた建造物が1814年イギリス人のラッフルズによって偶然発見され、28年後の1842年、オランダ人のハルトマンにより本格的な発掘調査が始まり、その後、当初の予定を大幅に経過した12年後の1854年にやっと遺跡の大部分が掘り起こされたとのガイドの説明。

公表されている遺跡の大きさは、高さ約33メートル、一辺が約120メートルのほぼ正方形の基壇1層の上に5層の方形と3層の円形の壇が積み重ねられている高度な石造りの建造物である。幾多の戦争を経てきて東南アジアにあって、奇跡的に残ったものは事実であり世界遺産に登録されるに値する大遺跡である。(と案内書にあり)

夜がすっかり明け、素晴らしいご来光も拝したことから、最上円壇を別の階段から下り、回廊のある方形壇に順次下壇し、各壇の回廊の壁に配している仏教にまつわる物語の浮彫彫刻レリーフをガイドの説明を受けながら見て回った。外縁の壁に安置されている仏像は極めて精巧な作りでこの時代の彫刻師の技術に感心した。ゆっくり見ると1・2時間は裕にかかる。

ウィキペディアによると、「総延長5kmに及ぶと言われる、仏教説話にもとづいた1460面におよぶ浮彫彫刻レリーフが時計回りにつづいており、登場人物は1万人におよぶとされている。同様に1212面の装飾浮彫には、天人や羅刹、鳥獣、植物文様およびインド神話に登場する伝説上の鳥獣などがみられる。」とある。

5層から地上に降り、今一度ボロブドゥール寺院遺跡の全姿を限りなく写真に収めた。遠くから眺めると、この遺跡の壮大さがよく分かる。また、外層、内層ともに四方に階段をもち、各面いずれも全く同形同構造で、どこを正面とするかわからない、幾何学的に均質な構造となっていることが本当によく理解できた。



方形壇の壁の浮彫彫刻レリーフ



ジャワ中部地震で崩壊したブラオサン遺跡の寺院・仏塔



ブラオサン遺跡・復元された仏堂



夕日を背にしたプランバナン遺跡の全景（中央がシヴァ寺院・両側にブラフマー寺院）

ボロブドゥール遺跡を後にし、我々一行はいったんホテルに戻り、昼食後同じく世界遺産であるプランバナン遺跡群の一つブラオサン遺跡を見学した。

ブラオサン寺院の敷地（境内か）は実に広大であるが、その寺院や仏堂の多くが崩壊し、無数の建造石が建っていたであろう場所々々に無残に重なりあって転がっていた。広大な境内の中央に南北2棟の仏堂が修復されており、入場料を払い境内に立ち入り、仏堂の堂内を見ることができ、当時の様子をガイドの説明によりよく理解することができた。

ブラオサン寺院はヒンドゥー教のサンジャヤ王家と 仏教のシャイレンドラ王家の姫との結婚を記念して建立したものであるという。

遺跡群の中心であるプランバナン寺院に着いた頃は日がそろそろ傾きかけていた。ここもまた広大な敷地であるが、ここの寺院は整備が行き届き、遺跡というより公園の中に寺院遺跡群がある遺跡公園になっている。

ガイドによると、プランバナン寺院は古マタラム王国のパリトゥン王（在位898年～910年）による建立と言われるヒンズー教の寺院群であり、ヒンドゥー教の遺跡としてはインドネシア最大級で、仏教遺跡のボロブドゥール寺院遺跡と共にジャワ建築の最高傑作の一つとされている。残念ながら、ジャワ中部地震で甚大な被害を受けた。その後日本からの無償資金供与により修復途上にあるという。

この遺跡は、ボロブドゥールやブラオサンと異なり完全に観光化され、敷地（境内？）の入り口内外には多くの土産もの屋やレストランがあり、様式は違えど、まるで日本の京都や奈良のようである。入り口から遺跡群へはかなり遠く、トロッコバスが送迎していた。行きは歩いたせいか遺跡群に着くや一行は熱帯の暑さに凝り、寺院見学どころではなくどっかり座り込んでしまった。せっかく来たのにと思い、私と娘婿だけで修復された寺院まで行き内部を見て回



プランバナン公園の中心に建つシヴァ寺院

り、ヒンズー世界の香りの一部を嗅いできた。帰りはトロッコバスで帰ろうと思ったが、閉鎖時間の5時を過ぎていることから乗車を拒否されてしまった。さすがガイド。大いにガイド風をふかし、頑なに断る係員と運転手を懐柔し無事入り口の駐車場広場に戻れた。

ホテルに着いた時はとっぷり日が暮れていた。世界文化遺産の長い一日がようやく終わった。

翌朝、再びジョグジャカルタ空港からバンドンに戻り、1泊したのち翌日娘婿の両親と別れ、シンガポール経由で帰国するという、インドネシア6泊8日の旅を無事終えた。

最後に忘れてはならない体験を書き置く。世界一高価で幻のコーヒーとして有名な「ジャコウネココーヒー」の工房を訪れ、ジャコウネコを目の当たりにして知ることができた。また、ジャコウネコのフンから回収されたコーヒー豆の生成過程をすべて



バンドン市立公園にて
back は Bandung Grand Mosque



現ハメックブウォノ 10 世が居住の王宮
ジョグジャカルタ市内



ジャコウネコ・ルアークコーヒー工房にて
ジョグジャカルタ郊外

見ることが叶えられ、かつ、日本では100g1万円はする最高級でめったに口にすることのできないジャコウネココーヒー、あの幻のルアークコーヒー（ルアークとはインドネシア語でジャコウネコのこと？別名：コピルアーク。コピはコーヒーのインドネシア語）を口にすることができた。更には、製造工房で現地価格ということから極めて安く土産として持ち帰ることができ

た。これは特筆すべき思い出である。

（注1）バンドン：インドネシアの5大都市のひとつで西ジャワの州都。首都ジャカルタから西200kmに位置する高原都市。ジャワの学術中心地。植民地時代は政治・経済・文化の中心地。1955年、第1回アジア・アフリカ会議開催地でバンドン会議として有名。最近では2005年・2015

年の50周年・60周年会議も開催（注2）ジョグジャカルタ：インドネシアのジャワ島中部南岸に位置する。ジャカルタから東へ空路1時間余り。上述の2つの世界文化遺産が象徴しているように古くから仏教やヒンドゥー教の王宮文化が栄えた日本という京都や奈良にあたる古都。地元ではジョグジャと呼ばれている。（日動協ホームページ、LABIO21カラーの資料の欄を参照）

洗練された技術 理想への貢献

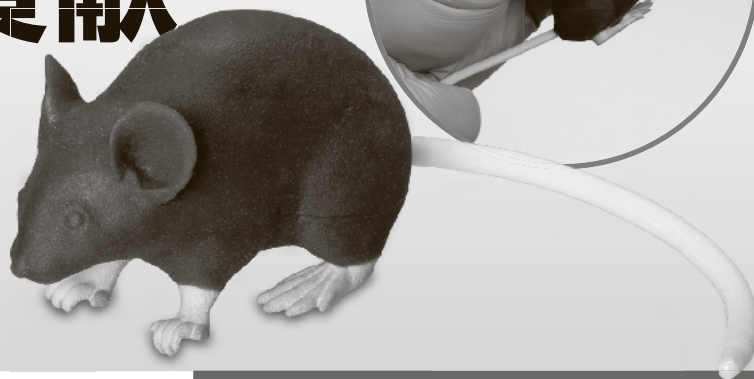
動物実験導入教育訓練用マウスシミュレータ

Mimicky Mouse

製品内容

ボディ：1体／尾1本

付属品：専用潤滑剤1本／ベビーパウダー 1本



三協ラボサービス株式会社
SANKYO LABO SERVICE CORPORATION, INC.

本社	東京都江戸川区西一之江2-13-16
本社営業部	TEL. 03-3656-5559 FAX. 03-3656-5599 skl-tokyo@sankyolabo.co.jp
北陸営業所	TEL. 076-425-8021 FAX. 076-491-1107 skl-hokuriku@sankyolabo.co.jp
札幌営業所	TEL. 011-881-9131 FAX. 011-883-1176 skl-sapporo@sankyolabo.co.jp
つくばラボ	TEL. 029-829-3555 FAX. 029-862-5555 skl-tsukuba_lab@sankeyolabo.co.jp

販売 ●実験用動物 ●関連商品 ●実験動物輸送

飼育受託

●実験動物全般の飼育管理業務（オープンシステム・バリアシステム・アイソレータシステム等）●飼育施設環境管理（洗浄業務から各種環境測定まで）●実験支援・代行 ●各第三者認証への対応

技術受託

●遺伝子組換え動物の維持・繁殖 ●無菌動物の作出・維持 ●実験受託（非GLP） ●施設クリーンアップ



www.sankyolabo.co.jp